

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**京都BAL再開発計画**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>								<b>2.5</b>
<b>1.1 騒音</b>								<b>3.0</b>
	1	室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
	2	設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>								<b>2.9</b>
	1	開口部遮音性能		3.0	0.98	-	-	
	2	界壁遮音性能		1.0	0.02	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>								<b>1.0</b>
				1.0	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>								<b>2.6</b>
	1	室温		3.0	0.50	-	-	
	2	負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
	3	外皮性能		1.0	0.17	-	-	
	4	ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-	
	5	温度・湿度制御		-	-	-	-	
	6	個別制御		-	-	-	-	
	7	時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
	8	監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>								<b>3.0</b>
				3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 空調方式</b>								<b>3.0</b>
				3.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>								<b>3.0</b>
	1	昼光率	●自然 A(全国版準用)	-	-	-	-	
	2	方位別開口		-	-	-	-	
	3	昼光利用設備	●自然 B(推奨内容)	3.0	1.00	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>								-
	1	照明器具のグレア		-	-	-	-	
	2	昼光制御	●自然 B(推奨内容)	-	-	-	-	
	3	映り込み対策		-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>								-
<b>3.4 照明制御</b>								<b>1.0</b>
				1.0	0.48	-	-	
<b>4 空気質環境</b>								<b>4.1</b>
<b>4.1 発生源対策</b>								<b>5.0</b>
	1	化学汚染物質		5.0	1.00	-	-	
	2	アスベスト対策		-	-	-	-	
	3	ダニ・カビ等		-	-	-	-	
	4	レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>								<b>3.5</b>
	1	換気量		3.0	0.50	-	-	
	2	自然換気性能	●自然 A(全国版準用)	-	-	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮		4.0	0.50	-	-	
	4	給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>								<b>3.0</b>
	1	CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>								<b>2.9</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								<b>3.0</b>
	1	広さ・収納性		-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
	3	バリアフリー計画	●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>								<b>2.7</b>
	1	広さ感・景観	●とも C(独自加点)	4.0	0.34	-	-	
	2	リフレッシュスペース		1.0	0.32	-	-	
	3	内装計画	●とも D(独自基準)	3.0	0.34	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>								<b>3.0</b>
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>								<b>3.0</b>
	1	耐震性		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								<b>3.8</b>
	1	躯体材料の耐用年数	●大切 A(全国版準用)	3.0	0.23	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		5.0	0.23	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		4.0	0.08	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.15	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31	-	-	
1	階高のゆとり			基準階階高4800	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	美観地区区域内による認定	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制				物販:16.76%、飲食:22.56%	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	6階(最上階)にトップライト設置	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	PH階屋上に太陽光パネル設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=40%	5.0	-	-	-	
集合住宅の評価					4.0	-	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				節水型大便器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	主要構造躯体SS400、SM490、SN490	4.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	外壁・内壁共に乾式工法により容易に分別可能	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					5.0	0.68	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			SKノンフロン使用 ODP=0	5.0	1.00	-	-	
3	冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮					4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮					2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.50	-	-	
2	振動				3.0	0.50	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制				1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる